

令和なコトバ「〇〇ガチャ」 ハズレ要素を諦める呪文

2021/11/6 5:00 | 日本経済新聞 電子版

誰もが知る流行語なき時代の新語を採掘し、世の中を知る「令和なコトバ」。言っても仕方ないと分かっているのに、言わずにいられないことがあります。そんなとき、カプセルトイ自販機になぞらえて呪文のようにとなえる言葉が「ガチャ」。世の中にあふれるガチャの背景を、ライターの福光恵さんが考えます。

とあるカプセルトイにハマったときのことだ。子どもに頼まれてやってきた母親を装い、スマホを見ながら「あー、これこれ」とつぶやいてから、ガチャガチャガチャガチャ、回す回す。なのに、お目当てがぜんぜん出てこないことに頭に来て、やぶれかぶれで自販機1台分のそのシリーズのカプセルトイを、通販で大人買いしてしまった。

まあ、うすうす気がついてはいたが、カプセルトイというのは、何が出てくるかわからないから、心ひかれるわけで。大量のカプセルが詰まった段ボールを開けたとたん、一気に熱が冷めて中身を取り出すことすら面倒に。今も大部分がカプセルごと、押し入れで眠っている。



最近物議を醸す「〇〇ガチャ」という言葉も、どんな中身が出てくるかわからないカプセルトイの自販機、いわゆる「ガチャガチャ」が語源といわれる。



イラスト 江口修平

その後、スマホゲームのくじ引きなども「ガチャ」と呼ばれるようになった。ちなみにこれはギャンブルと同じで、1回で夢のようなアイテムをもらえることもあれば、大金をつぎ込んでいくら回してもガラクタがたまっていくだけのことも。ゲーム本編よりガチャに夢中になって散財しまくる自分のようなプレイヤーも出てくるに至り、射幸心を煽りすぎると規制がかかったこともある。

そうして親を選べない子どもが、虐待、貧困といったシリアスな問題から、大切に取っておいたおやつを食べられたというようなライトな文句まで、親にさまざまなハズレ要素を感じたときに「親ガチャでハズレを引いた」というように使われる。

ツイッターで誰かが、親の悪口をつぶやいたときに使ったのが始まりとされるが、語源を調べていて、ネットの初期からある言葉だったことを思い出した。ただし、意味はぜんぜん違う。昔の親ガチャは、「親」が「ガチャ」と突然ドアを開け部屋に入ってきて、見られたくないものを見られてしまう状況のこと。のどかです。



一方の今は、子どもの嘆きというか、諦めの呪文というか。差し迫った状況でも使われることがあり、あちこちでガチャ論争が起きている。これをきっかけに、さまざまなツイていな

いことが「〇〇ガチャ」と呼ばれるようになった。

探してみると、あるわあるわ。親ガチャの次に広まっているのが「上司ガチャ」。ハズレ上司に当たってしまった不運を嘆くときに使われるが、もちろん上司のほうも黙っちゃいない。「部下ガチャ」という言葉で応酬だ。似たようなものに、生徒から見た「(クラスの)担任ガチャ」や「(部活の)顧問ガチャ」、先生や学校から見た「生徒ガチャ」なんていうのもあった。

自分の意志で選ぶ余地があったものの、後からハズレがわかるタイプのガチャもある。代表は「夫ガチャ」「妻ガチャ」。「隣人ガチャ」「不動産ガチャ」などもこのタイプだ。これらはハズレがわかったところで簡単に取り換えられないから始末が悪い。ほかに、「(車の)ディーラーガチャ」「主治医ガチャ」「ケアマネガチャ」などなど、世の中はガチャであふれている。

(福光 恵)

【関連記事】

- ・[令和なコトバ「マンバン」 ポニーテール丸めた男の髪形](#)
- ・[令和なコトバ「ステートメントルック」 主張は服に書く](#)
- ・[令和なコトバ「社内動画部」 社員が映像に思いを込める](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.